



放課後児童クラブの現状と課題を調査

放課後子ども総合プランの実現に各課の連携を！

こんな議案を審議しました

そこが聞きたい一般質問

委員会のつぎ

その他

今回はこのメンバーで、放課後児童クラブの現状と課題を調査しました。

宣子 彦志  
治 俊武  
木 俊武  
津 俊見  
宇 渡 浅  
委員長  
副委員長  
委員



●放課後子ども総合プランについて

国は、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、放課後児童クラブと放課後子供教室の計画的な整備を進めるとしている。

目標としては、平成31年度末までに、放課後児童クラブについては約30万人分を新たに整備する。また、全小学校区（約2万カ所）で放課後児童クラブと放課後子供教室を一体的に、または連携して実施し、うち1万カ所以上を一体型で整備するとしている。

- 【国の目標を達成するための、具体的な方策】
- 学校施設を徹底活用した実施促進
- 一体型の放課後児童クラブ及び放課後子供教室の実施
- 放課後児童クラブ及び放課後子供教室の連携による実施

●放課後児童クラブの登録状況

現在上陽児童館で待機児童が1人発生しているが、この1人についても、近く解消される見込みである。

また登録人数の全てが毎回利用するわけではなく、イベント時を除いて、稼働率は90人定員の児童館で70数人程度である。

しかし、夏休み等の長期休み期間には、新たな利用希望者の増加も見込まれるため、待機児童対策に向けての検討を今後も続けていく必要がある。



西児童館の放課後児童クラブ



4月にオープンした、まちなか交流館内の放課後児童クラブスマイル

まとめ

放課後児童クラブの対象年齢が小学校6年生まで拡大された。

今年度、5・6年生の利用者はごくわずかであるが、現在の4年生の大半が継続して利用すると、来年度は定員を超えてしまう。

共働き家庭の増加に伴い、放課後児童クラブへのニーズも増加している。

こういった状況に、国では放課後子ども総合プランとして、学校の余裕教室等を利用した、放課後児童クラブ、放課後子供教室を進めている。玉村町においては、空き教室や余裕教室がない等、難しい問題を抱えているが、まずは運営委員会を設置し、その上で学校教育課、子ども育成課、生涯学習課の連携を図り、「総合教育会議」を活用しながら、それぞれが責任を持って協議して、この問題に対応していくよう要望したい。